令和７年度

リウマチ月間リウマチ講演会
一般・患者さん向けの講演会Ⅰ

共に歩む：多職種連携で取り組むリウマチコミュニテイの結束と支援

プログラム・抄録集

日時：令和７年６月14日（土）

会場：東京国際フォーラム ホールD5（ハイブリッド開催）

実行委員長：冨田　哲也　公益財団法人日本リウマチ財団 常務理事
森ノ宮医療大学大学院保健医療学 教授

主催：公益財団法人日本リウマチ財団
後援：厚生労働省
一般社団法人日本リウマチ学会
公益社団法人日本整形外科学会
一般社団法人日本臨床リウマチ学会
公益社団法人日本リハビリテーション医学会
公益社団法人日本医師会
公益社団法人日本薬剤師会
一般社団法人日本病院薬剤師会
全国保健師長会
公益社団法人日本看護協会
公益社団法人日本理学療法士協会
公益社団法人全国病院理学療法協会
一般社団法人日本作業療法士協会
公益社団法人日本介護福祉士会
一般社団法人全国訪問看護事業協会
公益社団法人日本リウマチ友の会

Japan Rheumatism Foundation
公益財団法人
日本リウマチ財団

対象者：一般・患者さんとそのご家族、医療・福祉・教育関係者など
本講演会に関心のある方ならどなたでも参加いただけます。
ただし、医療関係者は単位対象外です。

会場開催日時：
令和７年６月14日（土）12:00～14:10

オンデマンド配信期間：
令和７年６月20日（金）9:00～７月31日（木）23:59
期間中は、繰り返し視聴することができます。

視聴ページURL：
https://rheuma2025.net/viewing.html

実行委員長挨拶

令和７年度リウマチ月間リウマチ講演会実行委員会
実行委員長　**冨田　哲也**
日本リウマチ財団常務理事・森ノ宮医療大学大学院保健医療学教授

皆様こんにちは。「令和７年度リウマチ月間リウマチ講演会」の実行委員長を拝命しております冨田哲也でございます。今年度のメインテーマ「共に歩む：多職種連携で取り組むリウマチコミュニテイの結束と支援」を掲げて、リウマチ患者さんを中心としたコミュニテイの支援のあり方について、皆様と共に考え、議論できることを大変嬉しく思います。

近年関節リウマチの治療薬は、目覚ましい進歩をとげ、その治療成績は各段に向上してきています。一方で治療薬の選択肢が増えることは、時に治療決定に迷うこともあり、さらに関節リウマチの発症年齢の高齢化や患者さんの高齢化に伴い、臨床現場での治療は単に医師と患者さんだけの関係だけでは成り立たないのが現状です。リウマチ患者さんが日々直面している問題に対して、さまざまな専門職がそれぞれの役割を果たし、連携することで初めて、より良い支援を提供することができると考えます。医師、看護師、薬剤師、理学・作業療法士などの多職種が協力し、患者さん一人ひとりに寄り添った支援を行うことが求められています。私たちの使命は、患者さんがより良い生活を送れるよう、関節リウマチに対する理解と支援を深めることです。

関節リウマチは慢性疾患であるため、患者さんは長期間にわたって治療を受け続ける必要があります。そのため、医療だけでなく、患者さんの生活全般にわたるサポートが重要です。日常生活を支えるために、理学・作業療法士による運動指導や、薬剤師からの薬の正しい服用方法の指導が必要不可欠です。これらの支援は、患者さんの生活の質を高め、治療へのモチベーションを維持するためにも非常に重要です。さらに、多職種連携を強化することで、患者さんのニーズをより的確に把握し、迅速に対応できる体制が整います。そのためには、医療チーム内での情報共有が不可欠であり、患者さんの状態に応じた柔軟な支援を提供することが可能となります。こうした取り組みが、患者さんにとっては治療への信頼感や安心感をもたらし、医療チームにとってはより効果的な治療結果を得ることにつながります。

今年度の講演会では、リウマチ治療薬の最新情報から多職種連携を進めるための取り組みを通じて得られた経験などを共有する機会を設けております。これにより、リウマチ患者さんを取り巻く支援体制をより強固なものにし、患者さんにとってより良い未来を切り開くための一歩を踏み出せることを願っております。また、リウマチ患者さん自身も、自らの病気について理解を深めるとともに、医療チームと協力しながら治療に取り組むことが大切です。患者さんと医療チームが共に歩むことが、より良い治療結果を生むことを、私たちは確信しています。

この講演会を通じて、皆様が新たな知見を得て、今後の活動に生かしていただけることを心から願っております。

プログラム

一般・患者さん向けの講演会Ⅰ

6月14日（土）東京国際フォーラム ホールD5

式典・授賞式（12:00～12:40） 会場オンデ

式典

挨拶　日本リウマチ財団 理事長　**川合　眞一**

来賓挨拶　厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課 課長　**鶴田　真也**

授賞式

日本リウマチ財団リウマチ医学賞

廣田　圭司　京都大学医生物学研究所統合生体プロセス分野 准教授

塩川美奈子・膠原病研究奨励賞

中野　正博　理化学研究所生命医科学研究センターヒト免疫遺伝研究チーム 学振特別研究員 PD

日本リウマチ財団リウマチ福祉賞

黒木　恵子　公益社団法人日本リウマチ友の会 鹿児島支部長

一般社団法人全国膠原病友の会

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰（看護師部門）

神奈川県リウマチ診療を支えるNsの会

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰（作業療法士部門）

田口　真哉　丸の内病院リハビリテーション部作業療法課 課長

リウマチ月間特別講演（12:40～14:10） 会場オンデ

パネルディスカッション

「共に歩む：多職種連携で取り組むリウマチコミュニテイの結束と支援」

司　　会：冨田　哲也　日本リウマチ財団 常務理事

パネリスト：仲村　一郎　日本リウマチ財団 評議員

パネリスト：吉川　　朋　新潟県立新発田病院リウマチセンター 看護師

パネリスト：眞部　実穂　京都きづ川病院医療技術部薬剤部門 薬剤師

パネリスト：松山　宜之　岡山大学病院総合リハビリテーション部 作業療法士

患 者 代 表：門永登志栄　日本リウマチ友の会 会長

＊会場会場開催　オンデオンデマンド配信

受賞者の研究題目・功績

【令和７年度日本リウマチ財団リウマチ医学賞】

リウマチ性疾患の本態解明、治療法の開発などに関する分野で、その発展に大きく寄与する可能性を有した独創的研究に対して贈られる賞です。

廣田　圭司　京都大学医生物学研究所統合生体プロセス分野 准教授

研究題目：自己免疫疾患を惹起するIL-17産生Tヘルパー細胞の分化機構と慢性炎症維持機構の解明

【第 12 回塩川美奈子・膠原病研究奨励賞】

膠原病と闘い苦しみ、薬石効なく亡くなられた故塩川美奈子様ご本人およびご遺族の意思により創設された賞です。

中野　正博　理化学研究所生命医科学研究センターヒト免疫遺伝研究チーム
学振特別研究員 PD

研究題目：大規模シングルセル解析に基づく全身性エリテマトーデス病原性細胞の同定と機能解明

【令和７年度日本リウマチ財団リウマチ福祉賞】

リウマチ性疾患に悩む患者さんに対して、永年に亘る社会的救済活動を通じて、その福祉向上に著しく貢献のあった個人及び団体に贈られる賞です。

黒木　恵子　公益社団法人日本リウマチ友の会 鹿児島支部長

一般社団法人全国膠原病友の会

【令和７年度日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰】

リウマチ性疾患に関わるリウマチ専門職として、継続的にリウマチ性疾患へ対する医療・ケアの向上に大きく貢献した個人及び団体を表彰するものです。

看護師部門

神奈川県リウマチ診療を支える Ns の会

活動実績：リウマチ医療の革命的進化を受け、チーム医療のマネージメントの中心的役割を専門看護師が果たすべきであるという世界のリウマチ学会の提言があり、まずは、神奈川県の日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師のレベルアップとリウマチケア看護師を増やすことを目的としている

作業療法士部門

田口　真哉　丸の内病院リハビリテーション部作業療法課 課長

活動実績：リウマチ性疾患のリハビリテーション治療の発展・活動、リウマチ患者のライフステージ支援、養成校へのリウマチリハビリテーションの教育

受賞者による記念講演をオンデマンド配信でお届けいたします。
期間中は、繰り返し視聴することができます。
オンデマンド配信期間：令和７年６月20日（金）９：00 ～ ７月31日（木）23：59

共に歩む：多職種連携で取り組むリウマチコミュニテイの結束と支援

医師の立場から見える現在と未来

日本リウマチ財団
評議員　**仲村　一郎**

関節リウマチ診療におけるトータルマネジメントの重要性は論を待たない。そのためには医師、看護師、薬剤師、リハビリテーションを担当する訓練士等による多職種連携が大切となる。多職種連携とは、異なる職歴を持つ多数の医療従事者が質の高いケアを提供するために、患者、家族、介護者、地域社会と共に働くことと定義されている。

日本リウマチ財団ではリウマチ性疾患を征圧するため、当たり前のリウマチ医療を地域の差なく当たり前に受けられる未来のための活動を行ってきた。その活動の一環として、すべての医療従事者および患者の皆さまに対する教育・啓発活動を行い、RA トータルマネジメントの実践に邁進している。

トータルマネジメントの根幹は多職種連携である。①患者と医師を中心に据える多職種チームモデル、②カンファレンスを重視する相互関係チームモデル、③自己の専門領域を超えて積極的に他職種をカバーし合う相互乗り入れチームモデルがある。いずれも長所、短所があるものの、大切なことは医療スタッフが共想し、リウマチ患者の人生を共創することである。本発表では、医師の立場から見えるリウマチ多職種連携の現在と未来についてお話しする。

共に歩む：多職種連携で取り組むリウマチコミュニテイの結束と支援

患者さんや多職種と共に歩むリウマチケア看護師の「これまで」と「これから」

新潟県立新発田病院リウマチセンター
看護師　**吉川　朋**

関節リウマチ（RA）の薬物治療の格段の進歩はチーム医療のコーディネーターであるリウマチケア看護師の仕事にも大きな変革をもたらした。1999 年にメトトレキサート（MTX）が承認され、2003 年に生物学的製剤が登場し、2013 年には JAK 阻害薬が使用可能となった。薬剤治療の変革とともに内服方法と感染症予防の指導や休薬に関する電話相談をはじめ、注射製剤の点滴、皮下注射、特に自己注射指導ではリウマチケア看護師が主要な役割を果たすことになった。治療の選択肢が増えたことに伴い、治療方針の決定における共同意思決定支援や自己効力感を高める支援もリウマチケア看護師の役割に加わった。また、リウマチケア看護師には、妊娠・出産期の経済的にも精神的にも不安定な女性や思春期・若年成人（AYA）世代への支援、加齢に伴う筋骨格系の編成疾患、肺・心・腎疾患、認知症などの併存疾患や薬物治療抵抗性の難治性 RA（D2TRA）への対応などライフステージに応じたきめ細やかな対応が求められている。薬物のみでは解決できない新たな課題や問題点が浮かび上がってくる可能性がある。その意味で、多職種連携におけるリウマチケア看護師の果たすべき役割は広がるものと考える。

共に歩む：多職種連携で取り組むリウマチコミュニテイの結束と支援

あなたと薬の“かけ橋”に ― チームで支えるリウマチ医療と薬剤師の役割

京都きづ川病院医療技術部薬剤部門
薬剤師　**眞部　実穂**

リウマチの治療では薬物療法が重要な柱となりますが、薬を「正しく、納得して、安心して」使い続けるためには、医師だけでなく、多職種の支援が必要です。薬剤師は薬の専門家として、患者さんの不安や疑問に耳を傾け、副作用への対応、自己注射指導に加え、薬局では飲み忘れ防止や生活習慣のアドバイス、日常の不安への相談対応など、生活に密着した支援を通じて治療の継続を支えています。

本講演では、薬剤師が日々どのようにリウマチ患者さんと関わっているのかを、実際の事例を交えてご紹介します。また近年は、医療者が一方的に治療方針を決めるのではなく、患者さんと一緒に考える「共同意思決定（SDM）」が重視されています。薬剤師もそのプロセスの一員として、患者さんの価値観や生活背景を大切にしながら、他の医療職と連携し、より良い選択を一緒に見つけていく役割を担っています。リウマチとともに生きる患者さんを、チームで支える「リウマチを支えるチームの輪」の中で、薬剤師がどのように関わっているのかをお伝えします。

共に歩む：多職種連携で取り組むリウマチコミュニテイの結束と支援

リハビリテーション専門職の立場から

岡山大学病院総合リハビリテーション部
作業療法士　**松山　宜之**

関節リウマチは、長い時間をかけて病気に向かい合っていかなければなりません。今日の診療ガイドラインにおいて、薬物療法が病気そのものをコントロールできるようになりました。しかし、薬物療法だけでは完全に病気をコントロールすることは難しく、ある一定数の関節症状を有する関節リウマチ患者さんは存在し、その場合リハビリテーション治療・手術が適応となることがあります。発症初期のリハビリテーション治療は、関節保護の観点から手指などの小関節に関節変形防止のためのスプリント療法を行い、時には、身体機能維持のための運動指導や生活指導等を行います。また、手術においても、機能回復のためにリハビリテーション治療は積極的に関わります。このように、リハビリテーション治療は関節リウマチ病期のいずれの時期においても開始することはできますが、そのためには、リウマチ医からの依頼が必要になります。場合によっては、看護師・薬剤師からリウマチ医を通して依頼があることもあります。このように「顔」が見えるチームが、多職種連携を促進します。また、リハビリテーション治療は、施設を超えて行うことがあり、ここでも「顔」が見える関係作りを心がけております。

公益財団法人日本リウマチ財団
〒105-0004　東京都港区新橋 5–8–11
新橋エンタービル 11 階
TEL：03-6452-9030・FAX：03-6452-9031
E-mail：jrf@rheuma-net.or.jp